

## [見張り人] ゴグとマゴグの戦い

### エゼキエル38章、39章

#### - A WATCHMAN REPORT -

しかし、見張り人が、剣の来るのを見ながら角笛を吹き鳴らさず、そのため民が警告を受けないとき、剣が来て、彼らの中のひとりを打ち取れば、その者は自分の咎のために打ち取られ、わたしはその血の責任を見張り人に問う。

(エゼキエル書 33章6節)

YouTube 2016.09.02公開 <https://youtu.be/XmnxKVDNyt0>

聖書の預言者エゼキエルは、終わりの時、ゴグ、マゴグの戦いで知られる広範囲の連合軍によって、イスラエルが侵略されると伝えており、そのことがエゼキエル書38章、39章に記されています。

最近の新聞の見出しで中東の闘争を見ていると、この、およそ2,600年前に預言された侵略が、近い将来、成就し得るということが、たやすく想像できるでしょう。

エゼキエル36章、37章は、ユダヤ人がイスラエルに集められると預言しており、(イスラエル再建 1948年5月14日) それに続いて、この大規模な侵略が起こります。

1948年5月14日まで、侵略する国家は存在しませんでした。

現在、イスラエル国家の存在は事実であり、反キリストの登場、患難へとつながる戦争の舞台は、整ったようです。

この戦争で、イスラエルを破滅させようとする敵を、神ご自身が打たれます。エゼキエル38章、39章を読むと、イスラエルの国家再建の預言だけではなく、近い将来、成就されそうな、イスラエルに敵対して連合すると神が言われた国々は、いまだかつてなかったように、連合しています。

この連合国の指揮は、ロシアとイラン。

そして、これらの国は現在、ISISとの戦闘を装って、イスラエルの入り口、シリアまで来ています。イスラムが人口の大部分を占めるロシアは、イスラエルの大敵イランとともに、ゴグとマゴグの連合国を統率して、イスラエルに攻め入りエゼキエル38章を成就させます。

イスラエルの巨大原油支配が、おそらく鉤となり、ロシアはイスラエルに攻め入りますが、残念ながら、ロシア、イランが率いる連合国は、神がご介入され、イスラエルを守り、全ロシア軍の7分の6を払拭してしまいます。

現在、シリアでの闘争に、ロシアとイランが軍を投入するという驚愕の事態を、われわれは目撃しており、歴代、敵同士であったこのふたつの国が軍事協定を結び、ともに動き始めています。

一方は、この地域に深刻な結果をもたらしており、もう片方は、イスラエルの安全を妨害する非常に危険な敵対者です。

「今日は、前回のアップデート以降、大きく発展した件をふたつお話しします。(JDファラグ牧師)

前回のアップデートから、2週間が経ちました。まずはトルコのシリア入りに関して。

次に、アメリカ合衆国の、イランとロシアとの関係。

前もって言うておきますと、アメリカ合衆国の大統領（オバマ大統領）が、中東をロシアとイランに譲るという意図的、さらに協定された動きがあることを、前もって理解しておいてください。

それについては、以前にもお話ししていますが、現在、トルコがイラン、ロシアとともに中東で行っていることを理解する上で、それを知っておくことが重要になります。

それはみなさんもお存じの通り、当然、エゼキエル38章が実に詳細に起こっているのです。

次に理解しておくべきことは、現在、テロ攻撃、地震、そのほかすべてのことが、背景で起こっているということ。繰り返しますが、これはただの背景に過ぎない。

次に、驚愕かつ前代未聞のニュース。トルコが陸路でシリア入り。

これもまた、特にCNNでは、ほとんど報道されていません。彼らはアメリカ合衆国の銃規制に関して、2時間の特別番組を報道していましたから…。

内容は、こうです。

トルコは、シリアでイスラム国およびISISと戦うためだと言っています。でも、ちょっと待ってくださいよ。トルコさん？そこには、すでにイランがいて、ロシアもすでにいる。

アメリカも、多分なんとなくそこにいるような感じで…。

なのに、なぜトルコがそこに行く必要があるのか？

私が、その理由を教えてくださいよ。

ISISと同様に、クルド族も。トルコは、クルド族からも脅迫され、戦っています。

CNNのような、反イスラエル、反クリスチャンのメディアを引用することを、お許してください。ちなみに、彼らはますますひどくなっています。

水曜日、トルコがシリアに戦車を送った件に関して、トルコの発言を報道しました。その記事の中の、トルコのエルドアン大統領の発言を引用しますと、

”トルコのシリア領土への襲撃は、ISISと戦うためだけではなく、アンカラの向かい側、シリア北部のクルド族の戦士と戦うためでもある。”

これに対して、私の疑問は、

だれが、だれと戦っているのか？

だれが、だれの味方なのか？

だれがだれの側で、なぜなのか？

トルコは、そこでなにをしているのか？

なぜ、シリアなのか？

シリアがどれだけ小さいか、分かりますか？

なぜシリアなのか、言いましょう。

なぜシリアなのか？

それはイザヤ書17章と、エゼキエル38章のためですよ。

1994年8月、私の父が亡くなる前に、父は、「シリアから目を離すな」と言いました。

おもしろいのは、父がこれを言ったのは、1993年11月、イサク・ラビンとアラファートの間で、オスロ平和合意に調印された時に、それについて聞くために、私が電話をしたときでした。

私の父はエジプト出身。大学では神学を専攻。当時の私よりも、はるかに良く聖書を知っていましたが、クリスチャンではありませんでした。

知識は持っていましたが、救いに至る知識はなかった。

これは非常に耐えがたいことで、何年も父のために祈りました。

そして、忘れられないのが、1994年8月14日。

どうして日にちまで覚えているかというと、その日は土曜日で、そのとき、私と妻は祈禱会に行っていたのです。

当時、父は入院中で、私たちはお見舞いに行きました。

そして、帰り際に父が言ったのです。

”息子よ。おまえを愛している。おまえをととても誇りに思っているよ。神がおまえを祝福してくださいように。”

これはアラブ文化で、私も当時は気づかなかったのですが、父は死に際に、祝福を祈ってくれていたのです。旧約聖書でも、イサクが死に際に、ヤコブを祝福しています。家長が死ぬ前に、神の祝福を長子に受け継ぐことは、とても大切で父は、それをしていたのです。

私は、父が天国にいると心から信じ、望んでいます。私の地上での父が、天国で天の父と共にいると…。

ともかく、父は中東に関して、実によく把握しており、私はいつも、会話から父が正しい方向に向かうことを期待しつつ、聖書預言の質問を父にしていたのです。

それでも、私にとってはこれは謎で、1993年9月に、パレスチナ人がイスラエルとの平和合意に調印するという歴史的な出来事に、父の答えは、

”シリアから目を離すな”

シリアは、全然関係ないじゃないか？

大ありです。

大あり。

なぜか？

それは、シリアが、昔も今も、これからも、起爆剤となるからです。具体的に言うと、イスラエルに関する聖書預言の起爆剤。

そのため、

『ダマスコに関する宣告。見よ。ダマスコは取り去られて町でなくなり、廃墟となる。』

(イザヤ書17章1節)

と言う、イザヤ書17章の聖書預言が、すぐにも成就されようとしていると言っていいでしょう。そして、これが成就されれば、すぐさま、次の預言へと動くでしょう。

具体的に言うと、エゼキエル38章、39章。

どうか、よく聞いてください。

とても重要なことです。

私がほぼ確信しているのは、これは後に続くか、または、同時に起こる可能性もある。

つまり？

私が思うに、エゼキエル38章は、イザヤ書17章の直後に起こるか、もしくはイザヤ書17章と同時に起こる。

いずれにしても、その意味するところは、大きい。

火曜日のThe Times Of Israelの記事が面白かったので、引用しますと、

国連の人道主義主任が発言。”シリアは、この時代、最大の惨事となった。”

だから、みんながシリアに集まっているのです。シリアが起爆剤。シリアが”つなぎ”だから。

”くさび”と言ってもよいでしょう。

BBCの報道もまた、ふたつの意味で面白くて、ひとつは、見出しが意味しているのは、  
”アメリカ合衆国は、すべて、事を行う前にロシアにお伺いを立てなければならない。”

これ、気づいていましたか？

だから、前置きでお伝えしておいたのです。オバマが意図的に結託して、中東をイランとロシアに譲ったと、特に理解しておかなければならないと…。

実に意図的です。

そして現在、アメリカ合衆国の立場は？

アメリカ合衆国は、なにをするにも、事前にプーチンにお伺いを立てないといけない。シリアで何かをするときは、特に。

そんなことを、だれが想像できたでしょう？

二番目は、さらに面白いと思ったのですが、ダーライヤーという町の状況を報じた記事です。

ダーライヤーとは、ダマスカスから車で20分ほどの位置にある町で、報じられた内容は、これ。

”ダーライヤーの住民は、長年、銃弾にさらされ、同時に食べ物や飲み水、電気の不足に苦しんでいる。そこを去って行く人が言うには、「町は廃墟となった」 ”

廃墟ですよ。

そして、われわれの知る真実は、ダマスカスまで車でほんの20分。

サダム・フセインの大量破壊兵器は、シリアのアサドに運搬されて、ダマスカスの地下に隠されている。これが確実に物語っていませんか？

これでイザヤ書17章の説明がつきませんか？

ダマスカスが、廃墟になる。これがイランの進展につながります。

Washington Times (ワシントン・タイムス) によると、イランは、オバマの核協議以降も、われわれが期待したようには態度をあらためない。

少し、記事を読んでみましょう。

”二度の危険な接近”

これ、聞きましたか？先週です。

”今週、ペルシャ湾で二度にわたる、イランのアメリカ海軍への危険な急接近は、テヘランの意図に関する、新たな疑問を引き起こした。オバマ政権がイスラム諸国とその軍隊を温和にすることを期待した絶賛の核協議から一年。”

これもまた、何度も言って申し訳ないですが、オバマは、意図的に中東をイランとロシアに譲ったと、初めに前置きをしておいた理由は、彼らは、初めからイランが態度をあらためるなんて期待もしていなかったことが分かるためです。

基本的に、彼は中東の権利書をロシアとイランに譲った。

およそ2,500年前に、エゼキエルがそうなると言った、そのとおりです。

これは現在起こっているのではなくて、もう、起こったのです。

いま起こっていることではなく、それは、もうすでに起こったのです。

これに困惑していると言うようでは、まだまだ甘すぎる。その証拠が、金曜日のFoxNews（フォックスニュース）の報道。

”防衛省によると、アメリカ海軍に対するイランの挑発は、今年になって50%増。”

われわれの軍人がひざまずく映像が、頭から拭い去れますか？

ひざまずいて…

われわれの愛する、かつては地球上で最も力を持ち、祝福されたアメリカ合衆国に、なにが起きているのか。

屈辱に屈辱を重ねて、これだけでまだ足りないなら、さかのぼること、1月。

”アメリカは、イランに4億ドルを送った二日後に、13億ドルを送っていた。”

ynet news（ワイネットニュース）によると、

”アメリカは、1月、飛行機に現金を搭載して、テヘランに送り届けた二日後に、あまり知られていない対外紛争解決資金から、13億ドルをイランに支払った。”

国務省のスポークスウーマン、Elizabeth Trudeau（エリザベス トゥルデュー）は、「外交上の、デリケートな問題のため、アメリカは1月19日の支払いに関しては、これ以上発言できない。」

支払いは、13回の、\$99.999.999.99と…」

## ロシアの独裁者（ゴグ）と、その連合軍

- イラン（ペルシャ）、リビアとアルジェリア（プテ）、スダン（クシュ）、トルコ（ゴメル）、そのほかのイスラム諸国（ベテ・トガルマ）を含む - ”終わりの時”に、イスラエル国家に敵対して集まり、ヘブル人の預言者エゼキエルによると、イスラエル ユダヤ人が、絶体絶命に見えた最後の瞬間に、アブラハム、イサク、ヤコブの神が超自然的に介入し、救い出されます。

エゼキエル38章18節、19節を見ると、

ゴグがイスラエルの地を攻めるその日、 -神である主の御告げ -わたしは怒りを燃え上がらせる。わたしは、ねたみと激しい怒りの火を吹きつけて言う。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。

（エゼキエル38章18節から19節）

エゼキエルによると、この地震は地球全体を揺り動かし、そして、

地上のすべての人間もわたしの前で震え上がる。（エゼキエル38章20節）

敵の軍勢はこの大地震の時、恐れおののき、分別を失って、

彼らは剣で同士打ちをするようになる。（エゼキエル38章21節）

わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、…（エゼキエル38章22節）

神が、これらイスラエルの敵に罰を下される様子を、エゼキエルは説明しています。



彼（ゴグ）と、敵の部隊と、彼の率いる多くの国々の民の上に、豪雨や雷や火や硫黄を降り注がせる。

（エゼキエル38章22節）

ハリウッド映画のシーンを彷彿とさせるような、イスラエルの敵の上に火が天から降り注ぎ、神のさばきが彼らを焼き尽くす。

- 神である主の御告げ - わたしはマゴグと、島々に安住している者たちとに火を放つ。

（エゼキエル39章6節）

つまり、ロシアとほかの敵国の国土にも、部分的に天からの火によって、超自然的に大打撃を受ける。

聖書には、これがどのように起こるのかは書かれていません。しかし、超自然的な裁きが下ることは明記されており、イスラエル国防軍による戦いや、イスラエル空軍のミサイルではないことが分かります。

イスラエル軍が自分たちの国を守るために戦うと書かれた記述はなく、もしかしたら、イスラエルの指導者たちは、このときに外交手段でロシアの指導者を説得し、引き下がらせようとするのかも知れません。

もしかしたら、そのときにイスラエルの指導者たちは、アメリカや国連、他国が外交的、もしくは軍事的にでも介入して、援護することを望むでしょう。

いずれにしても、聖書にはイスラエル軍が自国を防衛するとも、敵を打ち負かすとも書かれておらず、そうではなく、イスラエルの神が介入し、主ご自身でイスラエルを守られると聖書にはあります。

すべての希望が失われたように思われる最後の瞬間に、敵の軍隊に火や硫黄を降らせ、完全に破壊されるのです。

なぜ神は、イスラエルを守り、イスラエルの敵を打ち倒されるのか？

エゼキエル38章22節から23節で、主は、ハッキリと言われます。

わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼（ゴグ）と、彼の部隊と、彼の率いる多くの国々の民の上に、豪雨や雹や火や硫黄を降り注がせる。

（エゼキエル38章22節）

わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。

（エゼキエル38章23節）

この神によるさばきの結末は、非常に恐ろしく、イスラエル軍が敵の死体を埋葬するのに、7ヶ月を要すると書かれています。（エゼキエル39章12節から16節）

イスラエルの家は、その国をきよめるために、七か月かかって彼らを埋める。

その国のすべての民が埋め、わたしの栄光が現される時、彼らは有名になる。一神である主の御告げ—

彼らは、常時、国を巡り歩く者たちを選び出す。彼らは地の面に取り残されているもの、旅人たちを埋めて国をきよめる。彼らは七か月の終わりまで捜す。

巡り歩く者たちは国中を巡り歩き、人間の骨を見ると、そのそばに標識を立て、埋める者たちがそれをハモン・ゴグの谷に埋めるようにする。

その町の名はハモナとも言われる。彼らは国をきよめる。

（エゼキエル39章12節から16節）

それはおそらく7ヶ月以上を要するでしょうが、空の鳥や野の獣が死体の多くを食べると、エゼキエルは記しています。（エゼキエル39章17節から20節）

神である主はこう仰せられる。人の子よ。あらゆる種類の鳥と、あらゆる野の獣に言え。集まって来い。わたしがおまえたちのために切り殺した者、イスラエルの山々の上にある多くの切り殺された者に、四方から集まって来い。おまえたちはその肉を食べ、その血を飲め。

勇士たちの肉を食べ、国の君主たちの血を飲め。雄羊、子羊、雄やぎ、雄牛、すべてバシヤンの肥えたものをそうせよ。

わたしがおまえたちのために切り殺したものの脂肪を飽きるほど食べ、その血を酔うほど飲むがよい。

おまえたちはわたしの食卓で、馬や、騎手や、勇士や、すべての戦士に食べ飽きる。－神である主の御告げ－

(エゼキエル39章17節から20節)

ゴグとマゴクに関する預言は、罪には結果がともなうことを私たちに伝えています。

創世記12章1節から3節で、神は言いました。

”アブラハムの子孫を祝福する者は祝福を受けるが、呪う者は呪われる”

神は忍耐強くあられ、怒るのに遅い。

しかし度を超えると、神はユダヤ人を憎み、盗んだり、殺したり、滅ぼそうとする者に対処されます。

国々に警告しよう。

主を追い求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。

(イザヤ書55章6節)

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ3章16節)

神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。(エペソ人への手紙1章4節)

- おわり -

聖書預言の深い洞察と教えをシェアしてくださったJDファラグ牧師に、感謝します。ファラグ牧師は、ハワイにあるカルバリーチャペル カネオの創始者で、2005年2月以来、主任牧師を務めておられます。

ご友人、ご家族に伝えましょう…

こちらのウェブサイトで、さらに多くの預言に関する記事、動画をご覧ください。無料ニュースレターに、ぜひご登録ください。

[www.prophecyupdate.com](http://www.prophecyupdate.com)

この動画は、支援者の方々の惜しみないご献金によって制作可能となりました。ご献金は、ウェブサイト”DONATION”のページよりご送金いただけます。ご協力、感謝いたします。

- Divine USより -

聖書には、将来起こるべき事がたくさん書かれており、その中のいくつものが 実際に成就しているのは、私たちの知る所ですがこれから起こる事を知っている者、見張り番の責任についても、聖書は伝えています。

しかし、見張り人が、剣の来るのを見ながら角笛を吹き鳴らさず、そのため民が警告を受けないとき、剣が来て、彼らの中のひとりを打ち取れば、その者は自分の咎のために打ち取られ、わたしはその血の責任を見張り人に問う。

エゼキエル33:6

今、まさに目の前で成就しつつある、エゼキエル38, 39章の預言、ゴグとマゴグの戦い。ロシアとイラン、その他の連合軍がイスラエルに攻め入った後、どうなると 聖書は預言しているのか？神が、イスラエル、ユダヤ人を、どれだけ愛しておられるか、その国、民をのろうものは、どうなるのか、

携挙の日まで、私たちは、伝え続けなければなりません。

Prophecy Update News Headlines

<http://www.prophecyupdate.com/>

Prophecy Update Videos

<https://www.youtube.com/user/farsider...>

日本語訳および 字幕 By 木下言波

<http://divineus.org/>

2019.04.03 PDFファイル作成

鈴木聡